

第5回 多治見市総合計画策定市民委員会 会議録

日 時	令和元（2019）年6月3日（月）14時00分～17時00分
会 場	多治見市役所 駅北庁舎4階 第3会議室
出席委員	菊地裕幸委員（会長）、鈴木亜紀子委員（副会長）、伊藤健委員、加納明子委員、木下貴子委員、桑原真紀委員、佐藤薫委員、柴田真希委員、仙石治郎委員、高木重則委員、丹羽一貴委員、向井一仁委員、山田美穂委員 （委員15名13名出席）
欠席委員	堀尾憲慈委員、山本真行委員
事務局	鈴木企画部長、伊藤企画防災課長、小木曾課長代理、武井総括主査、水野総括主査、後藤総括主査、前原主査、土本主査
傍聴人	3名

会議録要旨

1 挨拶（企画防災課長）

2 議事（1）第4回市民委員会の会議録の確認

- 会長 資料2「会議録」について事務局に説明を求める。
 事務局 （資料2について説明）。修正があれば6月5日（水）までに事務局へご連絡いただきたい。
 会長 ご意見があれば修正して確認の上、会議録とする。

2 議事（2）「基本計画」見直し案の説明

- 会長 「政策の柱1」について委員の皆さんにご意見を求める。
 委員 「104080」の全体計画「③ハイパーQU」について、調べてみるとアンケートのようなもので不登校の兆候が分かってくるというものだが、分かたら学校や教育委員会はどういった対応をするのか。「さわらび」というのが自宅の近くにあるが、そういったところで対応するのか。
 事務局 「ハイパーQU」は全国的に小学校、中学校で導入されているもの。「より良い学校生活と友達づくりのためのアンケート」。結果を基に個人に合った適正な対応をしている。不登校は一人一人原因が違って本人も原因が分からない。先生も無理に「さわらび」に連れてくるということはない。「さわらび」に来られる子はまだ良い。野外活動などもカリキュラムに入れつつ、自分らしく生きられる場所を提供している。また、「さわらび」の父母やOBの会があり、相談に乗っている。
 委員 不登校になったら基本的には、「その子任せ」という対応か。無理やりはダメ、強

制的にどこかへ連れていくのもしにくい世の中の環境を考えると、小学生くらいならまだ良いかもしれないが、中学生くらいになると結構、自我もしっかりしてきて、そのときに、「行きたくない」となったらその子の言うがままになってしまうのか。

事務局 「言うがまま」というわけではないが、登校前に体調が悪くなるような子も多いと聞く。精神的に原因があつてのことだと思うが、無理に連れていくようなことはしていない。ただ、連続して休んだ生徒の家を先生が訪問することはしている。1日休んだら電話、2日休んだら訪問など、学校でマニュアルを作って対応している。

委員 いじめや不登校については、1日休んだら電話、2日休んだら訪問と回答があつた通りで、原因を先生方に調べていただき、必要であれば保護者会を開くというような経験を私もしてきた。それで改善していく場合もあれば、いろいろと手を尽くしても改善していかない場合もある。担任の先生も毎日のように訪問を重ねても改善しないとその次は教頭先生となっていくが、先生の時間的なこともありなかなか難しいが、兆候があつたときには学校が必ず対応している。

委員 「104100」の基本計画事業名「教職員の資質を更に高めます」について、不登校や引きこもりの問題は最近、大きな問題になっていると感じている。不登校に関わる職員の方々や学校の先生、周りのサポーター、親御さんも含めて支援の必要性を感じる。働き方改革で仕事の量や部活動の時間が減ったりしているが、教職員の質を上げるとともに、心理的な負担へのケアも必要ではないか。学習指導要領も変わってきて、小学校3年生以上は授業数が増えると言っているのだから、“働く教職員のサポート”もどこかに盛り込めないかと考える。

委員 「103060」の全体計画「④虐待対応専門員配置の検討」について、具体的にはどういったことを想定しているのか。

事務局 多治見市は比較的DVの事案が多いということで、岐阜県からそういった人員を配置することに関して打診があつたため、令和2年度に検討をして、令和3年度から配置をしたいという想定をしている。

委員 多治見市は比較的DVの事案が多く、岐阜県から打診があつたということであれば、令和3年度から実施というのは少し対応が遅いと感じる。問題意識があるのであれば早めに動いていただきたい。

委員 「103070」の基本計画事業名「地域や企業と連携し～」について、具体的な連携の想定はあるか。

事務局 子ども食堂を5か所で実施されているが、そういった活動は地域が主体で行われている。そこで学習支援もできないという話があるが、まだ何か決まっているわけではない。また、企業との連携については、地元スーパーさんがフードロスの関係で消費期限が迫っている食品を子ども食堂に無償提供するという協定を結んでいる。

委員 「105020」の全体計画「①学校ICT事業・校内LANシステムにかかる教育用・公務用PC等ICT機器導入及び更新」について、学校側が導入したい機器と保護者側が希望する機器が異なる場面があると聞かすが、多治見市として機器導入の際にイメージはあるか。

事務局 文部科学省から、「学校に大型モニタを設置するように」という通知が来た。ただ、

予算などの関係で一斉に設置することはできない。また、先生が求めるものと保護者の皆さんが求めるものが違うこともあると思うが、多治見市では文部科学省の方針に合うものを設置している。

委員 「104120」の全体計画「②～通学路等の危険箇所調査の実施」について、ブロック塀の問題や悲しい事故が起きているので早期でやっていただきたい。

委員 通学路については、各学校でPTAが学校側と一緒に点検を行っていて、通学路の協議会にその結果を上げている。ただ、結果を上げる時期が決まっていて、例えば、「5月中に挙げて」と言われるが、7月に点検を行う学校もあつたり、例えば、危険な箇所が30か所あつても協議会に上げられる箇所数が決まっているので、5か所に絞り込んで上げるが、その中から実際に対応されるのは1か所。同じ箇所について何年も要望し続けてやっと横断歩道をつけてもらうという現状。用地のことなどもあるので危険箇所の点検はするが、それがすぐに対応できるかという難しい面もある。

委員 「104050」の全体計画「②インクルーシブ教育の推進」について、障がい者の子たちも一緒にという教育姿勢は素晴らしい。こういう取組みが進めば、きっと企業の障がい者雇用も促進されると思う。こういった取組みに際して、保護者からはどういった意見があるか。また、「104080」とも関連して、障がい者であることがいじめや不登校に繋がるようなことがもしあるのであれば、インクルーシブ教育といじめや不登校への対応を包括的に進めていく必要がある。インクルーシブ教育はすべての学校で進めていくのか、キキョウスタッフはどれくらい増やしていくのか、全体的な計画があれば教えて欲しい。

事務局 インクルーシブ教育に対する保護者からの意見については把握していないので調べて次回、回答する。インクルーシブ教育については、キキョウスタッフを1名増員したいというのと、通級指導教室をもう少し増やして力を入れたい。また、専門家や駅北庁舎3階の関係機関の連携によって発達相談や情報共有をして対応したいという考え。

委員 インクルーシブ教育はすべての学校でやっているのか。

事務局 すべての学校でやっている。各学校に特別支援の必要な児童に対して担当の先生がいる。低学年の児童に支援が必要な場合が多いのでキキョウスタッフの先生が多く配置されている。

委員 インクルーシブ教育は、発達障がいのある子に対する教育というよりは、障がいのある子もない子も、すべての子たちに対するもの。キキョウスタッフはどこかの学級に配置されるものではなく、すべての学級を見てもらっている。はっきりと発達障がいと診断が付く子だけでなく、少し配慮が必要な子も非常に増えているので、年々スタッフを増やすようお願いして充実してもらっている。それと共に、保護者の方々の発達障がいへの理解が大切でインクルーシブ教育を進める上でも必要だと思う。PTAでも、講演会や家庭教育の中でも理解を深めていきたいと考えている。

委員 「療育に通ってはどうか」と声をかけられた親御さんから話を伺う機会があるが、療育に通うとなると週2回、子どもと一緒に昼間、療育センターに通うということに

なるが、そうなるとう働いているお母さんたちにとっては、特に正規職員で働く方にとってはちょっとしんどいと思う。子供を優先にとする方もいらっしゃる、今は仕事大事だからと子どものケアを後回しにしてという方もいらっしゃる。「さわらび」でも不登校の親の集いというものがあるが、それも平日の昼間に行っているとそこにも参加できずに思いを共有できず独りで苦しんでいるということがある。『討議課題集』P34 図表 14-5「不登校生徒の割合の比較」を見ても、多治見市は全国の割合よりも高い。図表 14-4「特別支援学級入級児童生徒数の推移」を見ても、その数が年々増えている。子供が減っているのに、こういった子供たちが増えていて、しかも多治見市は全国よりも多いというのはとてもケアが必要だと思う。働いているお母さんたちの自己肯定感や子どもたちの自己肯定感が落ちない小さいうちに、「さわらび」や療育センターに関わることが大事だと思う。働くお母さんたちが多いという現状を踏まえて、土日や平日の夕方や夜間など、どうにか時間帯を工夫して通えるクラスを一つでも二つでもあると現状から脱却できることがあるのではないかな。

委員 不登校の児童の割合が多いというのは、多治見市が移住定住を進めていく上でもネガティブな印象となる。

事務局 ご意見を参考にして検討させていただく。

委員 「103090」の全体計画「①各小学校区青少年まちづくり市民会議」について、小学校区によって活動状況にバラツキがある。例えば、養正校区ではPTAのOBがそのまままちづくり市民会議に入って比較的若い世代の方がしっかりと活動している。市之倉校区では子どもスタッフという仕組みがあって、小学校や中学校の子たちがまちづくり市民会議に入って一緒に事業をやっている。一方で、実働スタッフが70代の方という校区もある。せつかく各校区にまちづくり市民会議があるので、これがもう少し上手く機能しないかなと思っている。その地区にリーダーとなる方がいるかないかも大きいと思うが、親育ち4・3・6・3のモデルに指定されているところ、姫地区、根本地区、養正地区などではいろんな方が一緒になって活動をしている。市民会議と例えば防災など、既存の団体と繋げるようなコーディネート的なことをしてもらった上で、地域的な活動にしていく、そういったきっかけ作り、コーディネートが必要ではないかと考える。

事務局 青少年まちづくり市民会議と他団体との連携、そこで多治見市がコーディネート的な役割を担えないかという点について、持ち帰って検討をする。

委員 「103075」の全体計画「①大学生向け奨学資金給付事業」について、いろんな自治体でこういった制度を導入していると思うが、他市と比べて、例えば人口規模に対して利用件数や制度の充実度などが分かれば教えて欲しい。

事務局 調べて次回、回答する。

委員 『討議課題集』に掲げられた課題では、「給付対象者拡大のため、制度の見直しの検討」とあるが、『実行計画』では、事業費が令和2年度以降は減っているがどういうことか。

事務局 奨学資金給付事業の対象となった大学生が、後期計画期間中に初めて卒業するため、その年に追跡調査を行った上で、制度の見直しを後期期間中に行いたいという考

え。前期期間中に拡大をした制度の見直しを後期期間中に行うということ。

会長 「政策の柱2」について委員の皆さんにご意見を求める。

委員 「205020」の全体計画「①発達支援センターの整備」について、療育を行う「なかよし」と「ひまわり」について、障がいを持つ子がそういった施設に行きたいと思っても定員がいっぱいで行けないという話を聞く。先生に診てもらおうにも半年くらいかかって、その結果が出るのにまた半年くらいかかる。そういった課題には対応できているか。そういった不安を無くすにはどういったことを考えていけば良いか。

事務局 「なかよし」と「ひまわり」に関して言えば、現在は定員いっぱいという状況ではない。ただ、年齢で定員が決まっているので、今後そういったことが起こらないということもない。両施設は後期計画中に統合を予定しているが、定員が拡大するかどうかは検討中のところ。それ以外にも「ことばの教室」もあるが、ケースごとに適性を見極めながら配置をしている。

委員 「205060」の全体計画「⑤～障害者差別の解消の推進」について、多治見市民の皆さんの障がい者に対する理解を得られるように自分たちも協力したい。というのも、先日耳にしたのが、介護を必要とする方が眼科に行った際にタクシーを利用したところ、運転手さんは待っている間、介助する女性が本人をタクシーに乗せるのに手間取って時間がかかってしまったとき、運転手さんから、「たったワンメーターでこんなに時間がかかっては困る」と叱られてしまったという。眼科に着いたときも看護師さんが手伝ってくれなくて、「うちはこういうところだからしょうがない」と言われてしまったという。それぞれ事情はあると思うが、もう少し障がい者に対する理解、バリアフリーに対する理解を広めていきたい。それは身体障がい者の方も、高齢者の方も一緒。「障害者差別解消法があるんだ」と言えば良いという方もいるかもしれないが、対決するのは本意ではない。いろんな場面で啓発をしてもらいたい。

委員 障がい者の方へのバリアフリーは大切なことだと思うが、高齢者に関してはちょっと頑張ればこの段差はオッケーということもある。山口県に夢のみずうみ村という福祉施設があるそうだが、そこはバリアフリーではなく、“バリアアリー”。わざと段差をつける、わざと手すりをつけない。その結果、要介護3が2になる、2が1になると実績を残している施設がある。なんでもお膳立てをして、求めることをすることが本当に良いことなのか疑問が残る。これは、いじめの件にも繋がる。私もいじめられていたが、親から「どんなことがあっても学校に行け」と無理やり行かされた。有難かった。そのときに「行かなくて良いよ」と言われたら今の私はない。もちろん人それぞれだと思うし、それに対して責任を持てると言えば、教師や市役所の職員も持てないと思うので、最終的には親の教育、主体者の教育が大事になってくると思う。

委員 学校で、「ユニバーサルデザインのものを探して」という宿題があった。少し前は、「バリアフリーのものを探して」という内容だった。言葉の意味を検索してみると、「バリアフリー」は一般の人という括りがあって、それでは対応できない方のバリアを無くすという考え方だが、「ユニバーサルデザイン」はそもそもいろんな人がいるという前提の考え方。まだ、「ユニバーサルデザイン」が浸透していないので、「バリ

アフリー」の方が分かりやすいということかもしれないが、これからはおそらく多様性を前提とした考え方が大事になる。教育の現場でもユニバーサルデザインの実践で、掲示物を後ろに置くということもある。どこの項目というのも難しいかもしれないが、連携して取り組んでいければ良い。

事務局 基本計画事業名はまさに仰っていただいた内容になっている。ご意見は担当課にも伝えさせていただく。

委員 「205020」の全体計画「①発達支援センター」について、発達支援センターは未就学児が対象だと思うが、小学校以降の子を対象とした施設はあるか。

事務局 多治見市には普通学級か通級かということになる。

委員 「204030」の全体計画「①見守り活動の強化」について、私の父もこれから一人暮らしの高齢者になる。『実行計画』を見ると、「配食型見守りサービス事業」や「生活管理指導短期宿泊事業」をやっているとあるが、対象や応募条件はあるか。費用はどれくらいか。

事務局 調べて次回、回答する。

委員 「201020」の全体計画「①がん検診の受診率向上」について、保健師が地区担当制になり、検診の受診率が地区ごとに出るようになり、目標数値も出して取り組んでいるが、若い人の検診の受診率の低さが顕著。高齢者は積極的だが、一方で若くしてがんで亡くなる方もいて、ひと声かければ良かったと悔やまれるケースもある。自宅に検診のクーポン券が届くが、友人が受け取った他県のクーポン券と比べると、他県のものには子どもからのメッセージが添えられていた。それを見た友人は、「この子のために受けなければ」という気持ちになったという。メッセージ性のあるクーポン券であれば少しは届くかもしれないと思い紹介した。

事務局 担当課には好事例として伝える。

委員 「202010」の全体計画「③人材確保に協力」について、『討議課題集』P40 図表 22-4 「市民病院の医師・看護師数」が増えていてとても素晴らしい。土岐市の総合病院が存続等で話題になっているが、東濃西部地域において、医療体制の中核的な役割を担うことが期待されているし、移住定住においても判断材料の一つになるので積極的にPRしておくと思う。

事務局 ご意見を参考に検討させていただく。

委員 「201010」の討議課題集に掲げられた課題「③（仮）受動喫煙防止条例による環境整備の強化」について、地域清掃をしていると非常にタバコのポイ捨てが多い。ちゃんと吸える場所、灰皿を設置するような場所を作るという方向性はないか。一か月に一回清掃しても何十個も落ちている状況。街の美化という観点から言えば、いっそ法律で禁止した方が良いほど。

事務局 多治見市は喫煙対策に力を入れてきた。禁煙地区も設けていることに加え、国よりも厳しい基準を設けている。受動喫煙など子どもたちへの影響も含めて進めていく考え。

委員 「政策の柱1」、「政策の柱2」を見てきて、高校生、もしくはそれ以降の“大人の

引きこもり”に対する施策が無かったように思うが、そういった方への対策はないか。
事務局 年に何回か、心の相談日というものを設け、閉じこもり傾向の親御さんが相談にいらっしゃるといふ機会はある。

委員 家族などの所属があればそういった機会やメッセージも届くことがあるかもしれないが、そういったものが届かない方への対応も必要になってくると思う。

事務局 ご意見を参考に検討させていただく。

委員 以前、健康ハッピープランの推進員をやった際、健康ハッピープランが出来た次の年だったので、お披露目イベントをやろうとなった際、アンテナを張っている人にはそういった情報が届くが、健康ハッピープランに限らず、健康のことに限らず、関心のない人、メッセージが届きにくい人にどうやって届けるか。PR する機会を続けていくことが大事。こちらが伝えたいことと受け手が欲しい情報が合うわけではなく難しい面もあるが。

事務局 ご指摘の通り、「健康」と名の付くイベントをやっても意識の高い人にしか届かない。今、保健師の地区担当制が始まって、「健康」と名のつかない地域のイベントに入り込んで検診のPRをやっているところ。若いころからの意識が大切。もっと言えば子どものころから関心を向けてもらえるような活動をやっていかなければいけないと考えている。

委員 先ほどから引きこもりの話題が出ている。80の親が50の子どもの面倒を見る、70の親が40の子どもの面倒を見るといういわゆる「8050問題」と言われるが、私ももうすぐその年代になる。多治見市には「不登校の会」というものがあるが、親が月に一回集まっているが、開店休業状態。中学校も今は卒業させてくれるので、通信学校が多くなってきている。そういうところに通われるので無理に学校に連れて行かなくても、行ける感情が100%貯まったら行けば良い。80%くらいのところで「行け」と言ってもまた気持ちが下がってしまう。当事者がその気になるまでは気長に待つしかないのかなとも思う。

会長 「政策の柱3」について委員の皆さんにご意見を求める。

委員 「301030」の全体計画「④就職支援」について、多治見工業高校や陶磁器意匠研究所を卒業された方々が企業に就職する際、名古屋や他の都市部と比べると人件費に差が出てくるので、それ以外の部分で、例えば企業は柔軟な働き方で、勤務日数や勤務時間を短くして創作活動と両立するようなことも検討していければ良いと思う。

事務局 前回の市民委員会でも頭出しをしていただいた部分だと思う。陶磁器意匠研究所はハローワークとも連携して就職支援をしているところ。戴いたご意見も共有して参考にさせていただく。

委員 「305020」の全体計画「SNSの更なる活用策」について、『実行計画』では、『美濃焼』『美濃焼タイル』『うながっば』『アツイ』『モザイクタイルミュージアム』等の観光資源を使った情報発信」とあるが、実際、投資した金額とそれに対する効果はどうやって測っているか。

事務局 メディアへの露出数や掲載数で測っている。また、最近では「モザイクタイルミュ

ージアム」に関連して SNS 上でも多治見市についての投稿が増えており、担当課としてはそういったデータである程度、効果を測っている。

委員 「302010」の全体計画「②進出企業への支援」について、誘致することが第一だと思うが、その後、誘致企業と地元業との連携促進や、また他の自治体の事例を見ると、誘致した企業の本社に年一回訪問してフォローアップというかニーズ把握をしているとのこと。そういった活動にも力を入れてみてはどうか。

事務局 担当課ですでに取り組んでいるところ。やっていることに関しては明記できるよう書きぶりについては再検討する。

委員 「303030」の全体計画「③中心市街地活性化」について、『実行計画』では、「ビジネスプランコンテスト」について触れられているが、これは「303020」の起業支援にも関連している事業なので、「ビジネスプランコンテストの応募者サポートを通じた起業支援」というような事業内容を加えてはどうか。

事務局 総合計画上で、起業支援という面からも事業を位置づけられないか、書きぶりについて検討する。

委員 「307020」、「307030」に関連して、前回の市民委員会では、「多治見市は4月1日時点の待機児童は0人。年度の途中で数人発生する」とのことだったが、これ以外にも潜在的な保育需要があるはず。保育園に預けて働きたいと思っている、特に女性の方のニーズを掘り起こせるかどうか企業がとっても課題。例えば、勤務日数や勤務時間によっては働きたいという方もいらっしゃる。

事務局 保育の無償化に伴って、そういったニーズは増えてくると考えている。そういった状況を見据えて検討をしていきたいと考えている。

委員 「303010」の全体計画「③市内事業者の事業承継支援」について、具体的な事業のイメージはあるか。

事務局 具体的には、まずは個別の企業訪問から始めたいと考えている。状況やニーズを把握しつつ、セミナーなどで情報発信していくことをイメージしている。

委員 多治見市は、災害に強い、地震に強いということで進出する企業もあると聞く。もしそうであるならば、BCP（事業継続計画）の作成支援などを行うなど多治見市で事業をする企業の魅力を高めるという方法もあるのではないかと思う。

事務局 中小企業支援の手法として検討させていただく。

委員 「政策の柱3」は、移住定住を進める上でも関係の深い柱。働く場所として、多治見市にどんな魅力があるのかをまとめてPRしてもらいたい。もちろん、住む場所としてもPRすべき。

事務局 多治見市としてもPRの方法を再度検討しているところ。

委員 「304010」について、現在、テラに入っているテナント事業者は一旦、外に出て、また入るかどうかということだと思うが、おそらくテナント料は今よりも上がると思われる。テナント事業者のフォローはしていくのか。

事務局 多治見市としてテナント事業者を直接、支援するという立場ではないが、新しい施設に魅力的なテナント事業者さんに入ってもらいたいという取り組みの一環としてそういった視点も参考にさせていただく。

委員 「301020」の全体計画「③美濃焼 PR」について、2017年に国際陶磁器フェスティバルが開催された際、中田英寿さんが総合プロデューサーを務めたが、そのときに「セラミックバレー」というテーマを作った。国際陶磁器フェスティバルのチラシを見るとこのロゴが入っている。この中で、「セラミックバレー」を知っている人は少ないかもしれないが、「シリコンバレー」に倣って、この地をセラミックの主産地・発信地ということで「セラミックバレー」とした。それを活用できないか。美濃焼と言っても何か分からないと言われる。有田焼、益子焼、瀬戸物は焼き物と分かるが、美濃焼は食べ物だと思われることもあった。美濃焼に関わっていた者としては、こういった状況を打開したいと思っている。

事務局 ご指摘の通り、「セラミックバレー」という言葉がまだ定着していない。それについては内外からも、今回の総合計画に反映できないかというご意見をいただいている。今回、委員からいただいたご意見も踏まえて再度検討する。

委員 「303030」の全体計画「①中心市街地活性化事業」について、陶器まつりの際にはながせ通りでクラフトフェアが行われるが、地場産業の陶磁器に拘らず、陶磁器意匠研究所に来る人たちと一緒に木工だろうがガラスだろうが、工房や店舗を構えてもらえるような繋がりが生まれると良い。ビジネスプランコンテストで優勝したサードセラミックスやながせ通りの開くビルのようなにぎわいが、空き家を活用してくれるような活動を支援して欲しい。また、陶磁器意匠研究所を卒業した人がやりたいことをやれるような環境ができあがると良い。

事務局 陶磁器意匠研究所の卒業生の進路は、有名建築事務所や大手ゼネコンなどもあり、この地域に残る卒業生も現代アートや伝統芸術の世界で多く活躍している。そういった人材が集まる地域であるというイメージが、「セラミックバレー」にも込められていると考えている。

委員 「301010」の全体計画「窯業原料確保」について、現在、主要な鉱山が廃業してしまって、瀬戸に依存している状況だが、すでにこれまで値上げをしてきているが、今年の10月からさらに30%値上げをするという話を聞いている。現状ではメーカーは製造原価が10%上昇していて、それが今後、さらに上がる見通し。加えて、人件費も高騰してきている。そんな中で産地としての長期的なビジョンやグランドデザインがあると良い。そういう意味で、「セラミックバレー」は旗印として良いと思う。こういったイメージを具体化していけば、美濃焼業界は原料からメーカー、絵付け、商社などあって合意形成は難しいかもしれないが、自分の会社の延長線上に連携していけるものがあれば良いと思う。国際陶磁器フェスティバルも控えている。

委員 私も国際陶磁器フェスティバルの際に、「セラミックバレー」のロゴを写真に撮って知人に見せると大変評判だった。とても良いデザインだと思う。活用すべき。

事務局 「セラミックバレー」は旗印となり得るご指摘について、総合計画の中で明記できないか再度検討する。

委員 「306020」の全体計画「②新規就農者の受け入れ等を支援」について、多治見市で農業をしたいという方がどれくらいいるのか。高齢化が進み、農業を続けられないという方と、新しく始めたいという方とのギャップはどれくらいか。それに対する予算

は妥当なものか。

事務局 『討議課題集』P57、58にもある通り、多治見市の農業では観光農園の役割も大きい。分かりやすいところと言えば、いちご狩りやブルーベリー狩りなど。図業 36-1にある通り、多治見市の他の観光施設に匹敵する集客がある。一方、図業 36-6、36-7の通り、農家の数は減り、遊休農地は増える傾向にある。そのため多治見市は農業の担い手の確保のために、農業をするために多治見市に移住した方を対象にした補助制度を新設した。さらに、岐阜県全体では、冬春トマトに代表されるように、農業のやり方も教えている。農業のやり方を教え、遊休農地や空き家も提案することで新規就農者を呼び込もうとしている。残念ながら多治見市ではまだニーズは少ないが、西濃地域では多くの移住者の獲得に成功している地域もある。そういった成功事例を参考に、多治見市に求められているものは何なのかを探って、制度とのミスマッチを解消していきたいと考えている。

委員 儲かる仕組みとして、6次産業化のような事例が増えると良い。

事務局 ご意見を参考に検討させていただく。

会長 「政策の柱4」について委員の皆さんにご意見を求める。

委員 「401030」の全体計画「②団員募集活動」について、消防団は義務ではないと思うが、地元が根本だが、根本には元々なかったが、ここ10年くらいでできたはず。消防団にはどんな方が入っているのか。

事務局 自営の方、公務員、お勤めの方など。それぞれ勧誘を受けて入ってもらっている。最近では女性消防団や学生消防団もいる。

委員 団員は少なくなってきているのか。

事務局 少なくなってきている。

委員 消防団員については、声掛けの協力もさせてもらっているが、根本では大学生や20代の子も入ってくれている。ただ、地域の方のご理解がまだ得られない。練習が夜になることも多いが、音の問題などで苦情が来たりと苦勞されていると伺っている。消防団の必要性について広めていかないと、活動の場所も無くなってしまったり、消防団員の増加にもつながっていかない。いざというときには必要な存在。災害に強い街というのはPRポイントになり得る。多治見市の防災に関わる姿勢は東濃の中でも消極的に感じる。東濃5市と足並みを揃えて進んで欲しい。

委員 昔はその地域に住んでいてある年齢になったら必然的に消防団になっていたが、今は入りたくない、やりたくないというばかり。だが、大雨が降ったりすると土嚢を積んで欲しいという要望が消防団に来る。必要性は皆さん分かっていると思うが、うちの地域では早朝訓練で多いときには週4日と大変。子どものころから地域への愛着や参加意識を育んでいくことで、地域に還っていくのかなと思う。

事務局 ご意見を参考に検討させていただく。

委員 「402010」について、人口が減っていけば水道の需要も減っていくと思うが、このまま更新を続けていくとコストは大きくなっていくことが予想できる。他の地域で水道事業の民営化の話が出ているようだが、多治見市はどういう状況か。

事務局 多治見市の水道業務について民営化の議論はない。施設更新を進めると、有収率が改善されていく。水漏れなどで失われる水が減ることで、費用と対価を見極めて適正な運営に繋げて行きたいと考えている。

委員 「413020」の全体計画「①（仮称）平和太平線」について、いつ頃、完成する予定か。

事務局 後期計画中に位置を決めるスケジュールで進めているが、それ以降は決まっていない。岐阜県主体の事業としてお願いしているところ。

委員 リニアについてはどう捉えているか。

事務局 前回の市民委員会でもあった通り、リニア開通によって大都市圏との時間的な距離が短くなることを見据えて、下地づくりを進めていきたいと考えている。

会長 「政策の柱5」、「政策の柱6」について委員の皆さんにご意見を求める。

委員 「501040」の基本計画事業名「自助・共助の意識を高め～」について、自主防災というと行政と一般市民というニュアンスが強い印象だが、企業も明記できないか。他の自治体の友人の会社では自社内に防災倉庫を設置して、災害時にはそこから備蓄食料を供給する体制を整えているところもある。

事務局 最近では、防災倉庫や避難所を東濃信用金庫さんの敷地に設置するというものもしている。参考にさせていただく。

委員 災害時の駐車場の提供を企業さんに求めるという取組みもある。

事務局 多治見市では、善都さんとそういった内容の協定を締結させていただいた事例がある。

委員 「502030」の全体計画「①まちづくり活動補助制度」について、他地域や他自治体の良い取組みや事例を実現していく、制度化していく仕組みという理解で良いか。

事務局 この基本計画事業は、市内の民間活動を支援するもの。

委員 「共につくる。まるごと元気！多治見」という言葉の「共に」というのはどの事業にも関わる重要な考え方。多様なイベントに関わってきたが、主催者と参加者という側に分かれてしまうとどんな準備をしてもなかなかうまくいかない。一人一人が自主的に、自分のこととして参加できるようなまちづくり、自己実現としてのまちづくりが生き活きとした街をつくっていく。以前、教育委員会で青年まちづくり事業が盛んな街を視察する機会があったが、私は熊本県小国町や大分県の由布院を見たが、そこでは若い人たちが本当に活躍していて、そういうところに行って話を聞くと、刺激を受けた。人の心を動かすような体験が必要。若い人がそういった先進地を視察したり、地域の中でもイベントやお祭りなど何でも良いのできっかけがあって、そこにスタッフとして参加することによって何か感じるものがある、自分たちも参加して自分の能力を活かす場所があるという機会を作っていくことが一人一人が主体になった街づくりに繋がっていくと思う。

事務局 ご指摘のような内容は、「604010」に掲げている事業内容。

委員 是非、この事業に対してお金を投じて欲しいと思う。多治見市役所の人財育成というのは多治見市政にとって重要

委員 「604030」に関連したことだと思うが、市役所で発行する証明書などの手数料支払いのキャッシュレス化を検討できないか。郵送だと小為替というものを送るがこれが非常に手間で経費も掛かる。スマートフォンをコンビニでかざすだけで会計できる時代なので、市役所でもそういった手続きができるとすごく便利になると思う。

事務局 ご意見を参考に検討させていただく。

委員 「604010」に関連して、職業柄、いろいろな役所に行くが、多治見市役所の対応は良いと感じる。自分の仕事の範疇を狭めて、それ以外はノータッチという対応をするところもあるが、多治見市役所は親身になってくれるし、横との繋がりもあり、もちろん口を出すことはないが、「あそこに行けばどうなる」というアドバイスもいただける。

事務局 委員のお言葉を励みに一層、改善に努めていく。

委員 「501090」に関連して、川崎の事件などがあり、子どもたちの防犯というものに関心が高まっているが、多治見市として防犯カメラなどの設置や把握はしているか。

事務局 防犯カメラは公共施設内にはあるが、個人情報等の関係もあり、設置する際には審議会の意見も聞きながら設置している。屋外の防犯カメラの設置・管理しているものはないと認識している。今後についてはここでは即答できないが、現状はそういった状況。

委員 ながせ商店街では安全・安心な商店街を作るため、商店街振興組合が主体となって補助金などを活用して防犯カメラを設置している。多治見市が実施するのは難しいかもしれないが、民間のそういった動きを補助するような仕組みもあるのではないか。

事務局 ご意見を参考に検討させていただく。

委員 「603020」の全体計画「③長寿命化のための保全実施」について、予防保全以外に改修することで寿命が長くなるということであれば、そちらを優先するということもあり得るのか。

事務局 例えば、橋について言えば、橋の改修工事が一定期間に集中してしまうと財政的に圧迫されてしまうので、予算の平準化の観点から予防保全の中でも時期をずらして実施することはしている。

委員 点検に決められた期限などはあるか。

事務局 道路法によって5年に1回と決まっている。その中で修繕が必要な箇所について修繕をして、合わせて長寿命化も実施していく。

委員 「502050」の全体計画「②地域力の向上」について、根本でも地域力推進会議があるが、いろんなところで立ち上がるということだが、多治見市全体の方向性があった上で立ち上がっていくのが本来。根本であれば、交流センターで学んでいただいて、それを集会所や町内会へ広げていくという取組みをしているが、多治見市で大きな指針を見せていただいて地域で活動していけば、方向性を統一される。今は地域ごとに個々の動きをしている状況。地域によって事情は違うと思うが。

事務局 根本の地域力は他の地域のお手本になっているが、地域によってできることとできないことの差があり、地域力の立ち上げが遅れているようなところもある。地域の特

徴を勘案してつくっていきけると良いと考えている。そんな中で多治見市の大きな方向性を示すことは難しいと感じているが、委員のご意見も参考にしながら検討していきたい。

委員 「503010」の全体計画「③人権啓発活動」について、LGBTのようなことが原因でいじめなどに繋がるようなこともあると聞かすが、人数が少ないマイノリティの方について一気に理解を得るのは難しいかもしれないが、知識や理解がだんだんと広がっていくと良い。また、あるとき学校の教頭先生が発達障害について話してくれたときに理解が深まった。どういう風に接したら良いか分かってもらえると理解が深まる。私自身、どう接したら良いかと聞かれることもある。人権意識というところの項目になるのかどうか分からないが、そういった啓発があると良いのかなと思う。

事務局 LGBT、多様な性があるという点については「503020」の「子どもの権利に関する推進計画」において、子どもたちに多様な性があるということは教育の場でも啓発しているが、さらに推進していきける機会がないか担当課にも伝え、検討する。

委員 「501060」の全体計画「①ブロック塀除去」について、特に震災時にブロック塀の倒壊が懸念される中で重要な取組み。『討議課題集』P91 図表 51-3 によると平成 30 年度にブロック塀等除去補助金の交付金額が大きく伸びている。これは平成 30 年度から制度が拡充されたのか。ブロック塀の全体の量などは把握しているか。

事務局 拡充された。今年度は危険な箇所調査を実施して来年度以降、本格的に除去を促していく計画。

委員 どれくらいの面積に対してどれくらいの費用がかかるとか、除去した方の声などはどういったものがあるか。

事務局 調べて後日、回答する。

会長 ここまで「政策の柱」毎にご意見を伺ってきたが、すべての「政策の柱」についてその他、ご意見はあるか。

委員 「104070」の全体計画「①土曜学習講座」について、これは多治見市が主催しているのか。

事務局 その通り。開催状況は、『討議課題集』P33 図表 14-2 にある通りで、非常に好評。

委員 それを踏まえ、地域愛、多治見愛、郷土愛に加えて、祖国愛を伝える機会もつくりえないか。土曜学習講座のような多治見市独自の学習の機会としてそういったテーマも扱えないか検討して欲しい。

事務局 ご意見を参考に検討させていただく。

委員 「102010」の全体計画「③保育士の確保」、「104010」の全体計画「③人材確保のための対策を実施」について、保育士や教職員確保のために具体的にはどういったことを考えているか。

事務局 保育士については大学等へ依頼をして多治見市の受験をお願いする。教職員については処遇面の改善を検討している。

委員 「102010」の全体計画「③保育士の確保」について、第 7 次総合計画前期計画策定の際に女性活躍会議から、「男性保育士を増やして欲しい」を要望していたところだ

が、計画に入れ込めなかったためもう一度、提案したい。家庭はそれぞれで母子家庭などもある中で、男性性に接する機会を家庭以外で確保できると良いと思う。そういう点で、男性保育士を増やすことができれば良い。

委員 児童館の職員としても男性保育士の必要性を感じている。母性だけではなく、父性は子どもにとって必要。根本交流センターでは静岡市からプロの運動指導士を呼んで若いお兄さんたちに運動指導をしてもらったり、豊田市から男性保育士を招いて親子遊びをすることも考えたりしているが、なかなか近辺でそういった方を見つけることができない。豊田市の「パパレンジャー」という若い男性が育児に関わっていくという取り組みも参考になり、根本交流センターでも同様の取り組みを検討している。いずれにせよ、男女にかかわらず、育児に積極的な方が地域で活躍していってもらえれば良い。

事務局 男性保育士は正規の職員については、男性だけを特別扱いはできない。試験を受けて同じ条件の下で優れた方を採用していく中で、男性は絶対数が少ないので致し方ない面もある。また、処遇面で名古屋市など大きな自治体に動いてしまう中で、そういった採用のやり方は難しい。

委員 「305010」に関連して、観光大使には何か就任する上での義務などはあるか。鈴木ちなみさんなどは、彼らがツイッターで発信するだけでも我々が発信するよりも大きな影響力がある。

事務局 把握している限りでは強制力のあるものはないと思う。観光大使について、庁内でも「政策の柱3」について議論をする際に、「観光大使」という観光資源を活用していこうという議論が不足しているかもしれない。担当課とも協議して、全体計画等で位置づけることができないか再度検討する。

委員 「306010」の全体計画「③～農産物直売所拡大の検討」について、多治見市は消費地として大きいので、駅北ファームはもう少し大きな駐車場があり、広くて、利用しやすいようになると良い。駅から近いというのも魅力だが、この辺りは駐車場があると利便性が高い。瑞浪市だと半原カボチャというものがあり、川上屋や瑞浪高校の生徒とコラボする企画もある。甘原のトマトなどももっと売っていきたいのであれば、観光大使のシェシバタさんやスイーツ選手権で良い成績を残した多治見西高校の生徒などとコラボが増えていけば良いと思う。

事務局 農産物直売所拡大について要望は戴いているが、具体化はしていない。全体計画の素案にも「拡大の検討」とあるが、この計画自体も庁内で修正すべきかどうか検討している。

委員 「405030」について、ガールスカウトで子どもたち関わる中で、「日本一暑いまちで暑さ対策をシェアしよう」というテーマで、電気を使わない暑さ対策をアンケートで募集したときに、回答してくれた子に「SDGs」のロゴの入ったシールを貼ったティッシュやバンドエイドを配ったことがあった。また、環境フェアのブースで、「SDGs」に関するアンケートをして、「その言葉を全く知らない」、「言葉は知っているが内容は知らない」、「知っている」の3項目で9割が全く知らないと回答した。ただ、その人たちは、次は「言葉は知っている」と回答するはず。市民レベルでそういった

地道な発信もやっているなので紹介させてもらう。

委員 「413040」について、土岐市のアウトレット周辺は週末、渋滞が発生する。それに加えて、土岐市にイオンができるとさらに渋滞が増えると予想される。そこについて何らか対策は考えているか。

事務局 東濃西部都市間連絡道路は、国道 19 号線を補完するような道路であり、岐阜県への整備の要望を進めていく考え。

3 その他

事務局 (次回の開催日程を確認)

<会議終了>